

牛をつないだ椿の木

新美南吉

山の中の道のかたわらに、椿の若木がありました。牛曳きの利助さんは、それに牛をつなぎました。

人力曳きの海蔵さんも、椿の根本へ人力車をおきました。人力車は牛ではないから、つないでおかなくつてもよかったです。

そこで、利助さんと海蔵さんは、水をのみに山の中には行ってゆきました。道から一町ばかり山にわけいったところに、清くてつめたい清水がいつも湧いていたのであります。

二人はかわりばんこに、泉のふちの、しだやぜんまいの上に両手をつき、腹ばいになり、つめたい水の匂いをかぎながら、鹿のように水のみました。はらの中が、ごぼごぼいうほどのみました。

山の中では、もう春蝉が鳴いていました。